

# インフォメーション・コーナー

## 会 告

○新企画!! 学生会員入会時の新たな特典について……………	92
○「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い……………	92
○学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集!! ……	93
○平成 30 年の学会誌表紙写真の募集 秋季～冬季締切 3 月 31 日 ……	93
○「水土の知 (農業農村工学会誌)」への投稿お待ちしております! ……	94
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2016 年 7 月から 2018 年 6 月までの編集事務局について ……	95
○平成 28 年度東京フォーラム (農村振興研修会) の開催について 2 月 16 日開催 ……	96
○平成 28 年度関東支部現地見学会および業界セミナーの開催について 参加申込締切 2 月 15 日 ……	96
○水土文化研究部会第 14 回研究会の開催について (第 2 報) 参加申込締切 2 月 24 日 ……	97
○農業農村情報研究部会第 35 回勉強会の開催について 3 月 6, 7 日開催 ……	97
○国際かんがい排水委員会 (ICID) 第 23 回総会における発表論文の募集について 要旨締切 2 月 20 日 ……	98
○農業食料工学会食料・食品工学部会第 3 回シンポジウムの開催について 参加申込締切 2 月 17 日 ……	99
○日本混相流学会混相流シンポジウム 2017 の開催について 発表申込締切 3 月 17 日 ……	99
農業農村工学会論文集内容紹介……………	100
農業農村工学会技術者継続教育機構認定プログラム (一般参加可) 一覧……………	101
受入れ図書……………	102
文献目録……………	102
学会記事……………	104

### 第 85 巻第 3 号予定

展望：長谷川高士

小特集：ダム保全管理工学の最前線 (前編)

- ▷報文：農業用ダム振動特性の経時変化監視のための地震観測記録解析システム：黒田清一郎ほか
- ▷報文：GNSS による小規模ダムの変位挙動監視事例：田頭秀和ほか
- ▷報文：ダムの地震時挙動の傾向分析から見た耐震性評価の考え方：小林 晃
- ▷報文：基礎地盤の液状化に伴うアースダム堤体の破壊時挙動に関する実験的検討：林田洋一ほか
- ▷報文：ダム貯水池の流水管理に利用する流出予測手法の進展：田中丸治哉
- ▷報文：地下ダムにおける地下水質モニタリングと保全管理：石田 聡ほか

### 技術リポート

- 北海道支部：地理情報システムを活用した農業農村整備のための地域支援：片桐俊英ほか
- 東北支部：炭素繊維によるダム管理橋補強工事の施工事例：菊地裕昭ほか
- 関東支部：ハツ場ダムと土地改良事業そして溪流取水：阿野光志ほか
- 京都支部：東海農政局水土保全相談センターによる施設機能診断の支援：中井 雅ほか
- 中国四国支部：下蚊屋ダムにおける濁水流出防止対策検討事例：加藤善章
- 九州沖縄支部：徳之島ダムにおける生物遡上水路上流端の分水施設の機能：上山孝行ほか

## 農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加下さるよう、お待ちしております。

Ⓟのマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成29年2月13日	関東支部	平成28年度技術研修シンポジウム	Ⓟ 農業水利施設のストックマネジメントの現状と今後の展望	東京都	85巻1号
平成29年2月16日	全国農村振興技術連盟・農業農村工学会	平成28年度東京フォーラム	Ⓟ 先進技術を活用した農業農村の振興(平成29年度農業農村整備関係予算政府案の概要)	東京都	85巻2号
平成29年3月1,2日	関東支部	平成28年度現地見学会・業界セミナー	(学生対象)	さいたま市ほか	85巻2号
平成29年3月2日	京都支部	平成28年度支部講習会・研修会・農業農村整備地方セミナー(北陸東海近畿ブロック)	Ⓟ 地域資源を活用した地域の振興・活性化(仮)	名古屋市	85巻1号
平成29年3月2日	水土文化研究部会	第14回研究会	Ⓟ 農山村の景観形成と水利用の歴史の変遷	東京都	85巻1,2号
平成29年3月6,7日	農業農村情報研究部会	第35回勉強会	Ⓟ 地域の魅力発掘と情報発信ツール	奈良市	85巻2号
平成29年8月29~31日	大会運営委員会	平成29年度大会講演会	Ⓟ —	藤沢市	84巻12号 85巻1号

## 新企画!! 学生会員入会時の新たな特典について

農業農村工学会では、従来から行っていた入会時特典のハンドブック3点セット(ハンドブック+用語事典+初年度会費)に加えて、次の入会時特典を新たに設けることといたしました。

これから学生会員として入会をお考えの学生の皆様、是非ご利用ください。

## ①ハンドブック3点セット(従来)

(ハンドブック+用語事典+初年度会費)

学部生 17,000円

大学院生 19,500円

## ②必携3点セット(新設)

(必携+用語事典+初年度会費)

学部生 7,000円(5,750円)

大学院生 10,000円(7,250円)

## ③2点セット(新設)

(用語事典+初年度会費)

学部生 5,000円(3,750円)

大学院生 8,000円(5,250円)

( )内の金額は、10月1日以降入会の場合。

なお、用語事典を購入した学生会員に限り、用語事典の内容をスマートフォンなどで閲覧可能なサービスを提供いたします。

ハンドブック：改訂七版農業農村工学ハンドブック

必携：資格試験のための農業農村工学必携(第二版)

用語事典：改訂5版農業土木標準用語事典

問合せ先 (公社) 農業農村工学会 図書係

E-mail: suido@jsidre.or.jp

## 「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成3年4月に学術基金を創設し、これに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金は今後、学生会員のインターンシップの助成にも対象を拡げる予定です。

個人会員一口 5,000円(何口でも可)

法人会員一口 50,000円(何口でも可)

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名 (社) 農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

## 学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !!

農業農村工学会では、学会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者の方が CPD 単位を在宅のまま取得できる方法として、平成 17 年 10 月号より農業農村工学会誌「水土の知」誌上で「CPD 通信教育」を実施しています。学会員であり、かつ CPD 個人登録者は、どなたでも無料で参加することができ、通信教育分【ac】として年間最大 24 cpd を取得する大きなチャンスとなっています。この機会に、是非 CPD 通信教育へご参加ください。

なお、解答内容については技術者倫理に則り、自らの責任で送信してください。

### 1. 参加資格

農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者

### 2. 出題内容と出題方法

3 カ月前に発行された農業農村工学会誌に掲載された報文等の事実的内容から、択一式で毎月 10 問を出題

### 3. 解答方法

Web 画面に正解と思う番号を入力し、送信（事前に Web 利用登録が必要）

### 4. 解答期限

問題掲載月の月から翌月末日まで

（例：学会誌 1 月号掲載の問題は 2 月末日が解答期限）

### 5. 取得できる CPD 単位

10 問正解で 2 cpd を、7～9 問正解で 1.5 cpd を自動登録（正解数 6 問以下の場合は CPD 単位の付与はされません。）

### 6. 自動登録の時期

取得した CPD 単位は、解答期限最終日の翌月初旬に自動登録されます。

## 平成 30 年の学会誌表紙写真の募集

学会誌企画・編集委員会では、平成 30 年発行の学会誌も引き続き皆さまからの写真で表紙を飾ることとします。趣旨をご覧のうえ、ご応募ください。

### 趣 旨

わが国において、土や水を取り扱う技術の歴史は農業とともに発展してきました。農業の発展の過程で造られてきた幾多の農業施設は、農地を形成し、水を送り、物と人をつなぎ、連綿と我々の生活を支えてきました。これらの農業施設のいくつかは、長年の風雨にさらされながらも、機能を保ち続け、その地域の自然や文化に溶け込み、農村の景観を形成する重要な構成要素となっているものもあります。人々の悲願をかえ続けてきたこれらの農業施設や構造物は、地域の人々によって大切に守り、管理された結果、四季折々に機能美と景観美を放ち続けているはず。それらは、農村地域のみならず、都市の景観の中にも見つけることができるでしょう。

農業農村の現場で活躍される皆さま、日ごろ何気なく見過ごしているかもしれない農村地域における農業施設・構造物とそれを含み景観の美しさを再評価いただき、忙しい業務の合間にも、足を止め、手を休めて写真として記録していただき、広く一般の方々にご紹介ください。

記

### 1. テーマ

「農村地域における農業施設・構造物：先人たちの技術と苦勞が垣間見える造形美」

### 2. 対象巻号

学会誌第 86 巻（平成 30 年 1～12 月号）

### 3. 写真の種類

応募写真はデジタル、フィルムを問わず六つ切り以上四つ切

り以下のサイズにプリントしたものとします。（四つ切りワイド、A4 サイズも含まれます）。なお、六つ切りは 203×254 mm、四つ切りは 254×305 mm、同ワイドは 254×356 mm、A4 は 210×297 mm です。カラー、モノクロは問いません。採用となった写真についてはデジタル写真の場合に限り画像データを送っていただきます。この場合の画像データ量は一点につき 20MB 以下とし、形式は JPEG のみに限定します。

### 4. 枚 数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

### 5. 締 切

秋季～冬季 平成 29 年 3 月 31 日

春季 平成 29 年 6 月 30 日

夏季 平成 29 年 9 月 30 日

※応募時、過去 1 年以内に撮影したものに限りません。

### 6. 審 査

審査委員会（編集委員と写真家）で選考します。

### 7. 結果発表

学会誌第 86 巻第 1 号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は平成 30 年度全国大会会場内でパネル展示します。

### 8. 「Cover History（表紙写真由来）」執筆および写真使用料について

採用作品の応募者には学会誌掲載の「Cover History（表紙写真由来）」をご執筆いただきます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。また、採用作品には規定の写真使用料（1 点につき 1 万円）をお支払いします。なお、すべての応募作品が不採用となった応募者には記念品をお送りします。

### 9. 使用権・著作権

採用作品の使用権および著作権は（公社）農業農村工学会に

属します。

#### 10. 注意点

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、農業施設・構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること（花などの情緒物に埋没しないこと）が採用の条件となります。

#### 11. 応募方法および応募先

学会ホームページより、応募票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、勤務先、電話番号、E-mail アドレス、

写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、対象物の固有名称（固有名詞）、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送りください。

なお、原則として、応募写真は返却いたしません。

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

公益社団法人 農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会「表紙写真公募」係

☎ 03-3436-3418 FAX 03-3435-8494

E-mail : henshu@jsidre.or.jp

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

### 自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページに掲載の「農業農村工学会誌投稿要

項」,「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿ください。

### 学会誌 85 巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ			要 旨 縮 切 (A 4 判 1,500 字以内)
85 巻	3 号	ダム保全管理工学の最前線（前編）（仮）	公募終了
	4 号	ダム保全管理工学の最前線（後編）（仮）	公募終了
	5 号	多彩な農業農村工学の魅力の発信（仮）	公募終了
	6 号	「水土の知」の技術開発を促進する産学官の連携（仮）	平成 29 年 2 月 15 日
	7 号	大会特集号（関東支部）	公募なし
	8 号	農業農村工学とは何か（仮）	公募なし
	9 号	土地改良法改正を問う（仮）	平成 29 年 5 月 15 日
	10 号	進化する畑作農業（仮）	平成 29 年 6 月 15 日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌企画・編集委員会あてにお寄せください。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、刷り 4 ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします。

す。

送付先 〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

(公社) 農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会あて

TEL : 03-3436-3418 FAX : 03-3435-8494

E-mail : henshu@jsidre.or.jp

### 85 巻 6 号テーマ「『水土の知』の技術開発を促進する産学官の連携」(仮)

情報通信技術の急速な発展や、気候変動などに伴う災害リスクの顕在化など、社会情勢の変化を背景として、農業農村整備分野では「新たな土地改良長期計画」が平成 28 年 8 月に決定されました。これを受けて農林水産省は「農業農村に関する技術開発計画（平成 29～33 年度）」の 5 か年計画を策定中であり、技術開発を的確に進めていくことが求められています。実用性に富み、社会に貢献できる技術の開発と普及に向けて、産学官の連携がますます重要となっております。

農業農村整備分野の技術開発では、各地の営農条件や農業形態に合わせた実証的な研究が基本となることから、地域の自然

や社会条件を踏まえた広範な研究や基礎的な研究を継続することが不可欠です。限られた人材や予算の下で技術研究を継続的に展開するためには、産学官の情報共有を図り、新技術の情報を現場技術者や農業者などのユーザーに提供し、現場から得られるフィードバックを蓄積して技術改良・普及につなげるなど、技術開発のサイクルを構築することも必要とされます。

このような技術開発にかかる情勢を踏まえ、現場ニーズに即した新たなシーズを醸成する技術開発の取組みについて、産学官の連携事例、その成果、課題や提言など、「水土の知」の技術開発を促進する産学官の連携に関する報文を広く募集します。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと  
2016年7月から2018年6月までの編集事務局について

国際水田・水環境工学会（International Society of Paddy and Water Environment Engineering : PAWEES）では、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を発行しています。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。

水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としており、掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑（水配分管理、水収支、灌漑施設、栽培管理）
- ② 排水（排水管理、排水施設）
- ③ 土壌保全（土壌改良、土壌物理）
- ④ 水資源保全（水源開発、水文）
- ⑤ 水田の多面的機能（洪水調節、地下水涵養など）
- ⑥ 生態系の保全（水生、陸生動植物の生態系）
- ⑦ 地域計画（農村計画、土地利用計画など）
- ⑧ バイオ環境システム（水田農業と水環境、土壌環境、気象環境）
- ⑨ 水田の多目的利用（田畑転換、施設園芸）
- ⑩ 農業政策（農村振興、条件不利地の支援策など）

また、世界14カ国からEditor（20名）を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名なSpringer社からの刊行です。掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の4種類です。

一方、2016年7月から、新たな編集体制をスタートさせました。詳細は以下のとおりです。

**編集体制**

- ・ **Editor-in-Chief** : Dr. Takao MASUMOTO (Japan)  
Institute for Rural Engineering, NARO (National Agricultural Research Organization), Tsukuba, Japan
- ・ **Editors** 14カ国から20名
- ・ **Advisory Editing Board** 29名
- ・ **Chief Management Editor**  
Dr. Yu-Pin LIN  
Department of Bioenvironmental Systems Engineering,  
National Taiwan University, Rep. of China
- ・ **Managing Editors**

**Dr. Jin-Yong CHOI**

Institute of Green-Bio Science and Techology, Seoul National University, Korea

**Dr. Chihhao FAN**

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China

**Mr. Nobuyoshi FUJIWARA**

Rural Development Division, Japan International Research Center for Agricultural Science (JIRCAS), Japan

**Dr. Kimihito NAKAMURA**

Graduate School of Agriculture, Kyoto University, Japan

**Dr. Andrew WHITAKER**

Graduate School of Science and Technology, Niigata University, Japan

**編集事務局（2016年7月から2018年6月まで）：**

・ **Dr. Yu-Pin LIN**

Distinguished Professor, Ph.D.

Department of Bioenvironmental Systems, Engineering, National Taiwan University

No.1, Sec. 4, Roosevelt Road, Taipei 10617, Taiwan, Rep. of China

TEL : + 886-2-3366-3467, + 886-2-2368-6980

FAX : + 886-2-2368-6980

E-mail : yplin@ntu.edu.tw

**投稿先**：オンライン投稿 (<http://pawe.edmgr.com/>) になります。

**投稿資格**：筆者が農業農村工学会員でPWE誌の購読者であること。

**投稿要領等**：<http://pawe.edmgr.com/>に詳細を記載しています。

**発行スケジュール**：年4回（オンラインジャーナル）

**購読料**：正会員・名誉会員 12,343 円

学生会員（院生含む）8,743 円

非会員の方は購読できません。購読を希望される方は、まず農業農村工学会にご入会の上、お申し込みください。

なお、オンラインジャーナルへの完全移行に伴い、2016年度からの購読はパスワードによるWeb上での閲覧になります。冊子体の配布はありません。

**申込先**：農業農村工学会事務局

## 平成28年度東京フォーラム（農村振興研修会）の開催について

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



平成29年度農業農村整備関係予算の政府原案が決定されました。強い農業のための基盤づくりとして、農業農村整備事業予算の増額が盛り込まれたほか、農業分野におけるイノベーションの推進など先進技術の活用に向けた予算も盛り込まれています。農業農村整備や農村振興において、高齢化が進む人口減少社会の中で強く儲かる農業に向け、先進技術の位置づけはさらに大きくなっていくと考えられます。

このため、今年度の東京フォーラムでは、ICT、農業用ロボットによるスマート農業や地下灌漑・地下排水による効果的な農業用水の利用、多面的機能支払による農村の振興において活用可能な技術など、今後の普及や推進が見込まれる先進技術についての現状、また、その研究開発の方向などについても最新情報を提供し、農業農村の振興について多くの参加者と情報を共有するとともに、平成29年度農業農村整備関係予算政府案について農林水産省の担当官より情報提供することといたしました。

下記テーマについて農業農村整備の展開方向等について考える契機となるよう企画しましたので、会員をはじめ皆様のご参加をお待ちしています。

1. 主催 全国農村振興技術連盟  
(公社) 農業農村工学会

## 2. テーマ

先進技術を活用した農業農村の振興

(平成29年度農業農村整備関係予算政府案の概要)

3. 日時 平成29年2月16日(木) 9:50~16:30  
受付は9:15から行います。

4. 場所 東京都千代田区北の丸公園 2-1 科学技術館B2F  
サイエンスホール TEL: 03-3212-8485

## 5. プログラム

(講師およびテーマに変更がある場合があります)

9:50~10:30 開会挨拶

全国農村振興技術連盟委員長 林田直樹

(公社) 農業農村工学会会長 久保成隆

梶木賞・広報大賞表彰式

10:30~11:50 1. 講演

「ICTとロボットによるスマート農業」(仮題)

北海道大学大学院農学院教授 野口 伸

11:50~12:50 (昼食・休憩)

12:50~14:10 2. 講演

「地下かんがいに係る研究・技術の動向」(仮題)

農研機構農村工学研究部門農地基盤工学研究領域

水田整備ユニット長 原口暢朗

14:10~14:20 (休憩)

14:20~15:30 3. 講演

「安全で快適な畦畔草刈りを実現する除草ロボット」

(仮題)

農研機構本部情報統括監付き情報セキュリティ管理課長

長崎裕司

15:30~16:30 4. 講演

「平成29年度農業農村整備関係予算政府案の概要」(仮題)

農林水産省農村振興局整備部設計課技術調査官

日置秀彦

6. 参加費 8,000円(昼食代は含まず。参加費は当日会場  
申し受けます。)

## 7. 申込み・問合せ先

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

全国農村振興技術連盟

TEL: 03-3434-5407 FAX: 03-3578-7176

E-mail: kensyu@n-renmei.jp

申込方法等の詳細は全国農村振興技術連盟ホームページ  
(<http://www.n-renmei.jp/>) をご覧ください。

本フォーラムは、技術者継続教育機構会員のCPD単位(申請中)にカウントされます。

## 平成28年度関東支部現地見学会および業界セミナーの開催について

このたび、関東支部では大学の学部生および大学院生を対象とした現地見学会および業界セミナーを企画いたしました。国や県の土地改良事業が行われた現場を見学したり、行政、民間企業、大学教員、農家など、それぞれの立場の方々から直接話を聞いたりすることにより、農業農村整備事業に対する関心を高め、将来の農業土木技術者としての職業観を学ぶ機会としてもらうことを期待しています。また、日頃接触の少ない大学を超えた学生間の交流を深めるチャンスでもあります。皆さんの積極的な参加をお待ちします。

## 1. 日時

[1日目] 平成29年3月1日(水) 13:30~17:00

・業界セミナー(民間企業や国・県の業務紹介)

・2日目の現地見学会の対象施設についての事業概要説明

場所: さいたま新都心合同庁舎2号館関東農政局内

[2日目] 平成29年3月2日(木) 9:30~17:00

・現地見学会(土地改良施設および事業の実施状況などの現地見学)

見学先: 埼玉県内の国営事業地区および県営事業地区

(1日目あるいは2日目のみの参加も可とします。)

2. 集合場所

[1日目] さいたま新都心合同庁舎2号館5階  
共用小研修室5D

[2日目] さいたま新都心合同庁舎2号館1階  
エントランスホール

※現地調査(2日目)の移動は大型バス(さいたま新都心合同  
庁舎2号館発着)

[http://www.maff.go.jp/kanto/annai/address/honkyoku/  
kyoku.html](http://www.maff.go.jp/kanto/annai/address/honkyoku/kyoku.html)

駐車場はありません。さいたま新都心までは公共交通機関  
を利用してください。

3. 対象者 大学の学部生および大学院生(学年は問わない)

4. 参加費 無料(集合場所までの交通費は自費)

5. 交流会

2日目の現地見学会後、JRさいたま新都心駅付近にて交流会  
を実施します。

※会費は一人2,000円以内を予定。

6. 参加申込み

2月15日(水)までに、メールでお申し込みください。

記載事項:表題を「関東支部現地見学会の参加申込」として、  
本文に大学・学年・氏名・参加希望日(両日かどちらか一方  
か)・交流会参加の有無を記載してください。複数人のグルー  
プでの申込みの際も全員の情報を記載してください。参加申込  
後、詳細情報をお送りします。

7. 申込み・問合せ先

農業農村工学会関東支部事務局

東京大学大学院農学生命科学研究科

生物・環境工学専攻農地環境工学研究室 吉田修一郎

E-mail: agyoshi@mail.ecc.u-tokyo.ac.jp TEL: 03-5841-5344

水土文化研究部会第14回研究会の開催について(第2報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



景観とは、各地域に暮らす住民がその立地条件を克服かつ利  
用しながら、長い時間をかけて育んできたものである。農山村  
の景観の形成・保全に農業や農業土木の果たす役割は大きく、  
景観を「見つめる」ことにより、そこに内在する先人の知恵や  
工夫を学ぶことができよう。

水土文化研究部会第14回研究会においては、熊本県白糸台  
地の棚田景観を事例として、景観の成り立ち・意義と景観保全  
に資する水利システムの変遷、役割についての報告を行う。こ  
れらの報告を通じて、農業農村整備の来し方・行く末を議論し、  
次世代に伝えるべき技術や視点等について考えていきたい。

1. テーマ 見つめる～過去から、今、これからを～
2. 日時 平成29年3月2日(木) 13:00~16:00
3. 場所 農業土木会館 2階 A 会議室  
〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4  
TEL: 03-3434-0461

4. プログラム(表題は変更されることがあります)  
講演「農村の暮らし、文化が育む景観とその伝え方」  
熊本大学政策創造研究教育センター准教授 田中尚人

「棚田景観を保全する通潤用水の変遷と役割」

農研機構九州沖縄農業研究センター畑作研究領域  
畑土壌管理グループ上席研究員 島 武男

5. 参加料 無料

6. 申込み・問合せ先

〒305-8609 茨城県つくば市観音台2-1-6

農研機構農村工学研究部門 地域資源工学研究領域

地域エネルギーユニット ユニット長 後藤真宏

TEL: 029-838-7548 FAX: 029-838-7609

E-mail: griese@affrc.go.jp

7. 参加申込要領

整理の都合上、2月24日(金)までに以下の要領にてお申し  
込みください。

氏名 (CPD番号) \_\_\_\_\_  
所属機関 \_\_\_\_\_  
所在地 \_\_\_\_\_  
電話番号 \_\_\_\_\_  
FAX番号 \_\_\_\_\_

\* 部会員以外の方も参加できます。

農業農村情報研究部会第35回勉強会の開催について

少子高齢化が進行に伴い日本の農業農村が大きく変貌しよう  
としています。こうした中、農村を維持し、日本の農業を持続  
的に発展させるには、都市と農村のバランスを考えつつ魅力あ  
る農業農村の姿を描くことが必要です。

そこで、本研究部会では、「SNSを活用した農山村地域コ  
ミュニティの再構築」を研究している方を講師に迎え、参加者  
によるアイディアソン方式で地域の魅力と情報発信の方法につ  
いて議論したいと思えます。

勉強会の休憩時間には、地域の魅力を発信する新作ゲームの  
紹介も予定しています。皆さま奮ってご参加ください。

1. テーマ 地域の魅力発掘と情報発信ツール
2. 主催 農業農村工学会農業農村情報研究部会  
共催 東京大学ソーシャルICTグローバル・クリエイ  
ティブリーダー育成プログラム(GCL)
3. 日時 平成29年3月6日(月) 13:00~17:00  
3月7日(火) 9:00~12:00

4. 場所 奈良土連会館4階会議室  
(奈良市高畑町1116-6 TEL:0742-26-1310)

5. プログラム (案:変更の可能性あり)

<1日目>3月6日(月)

13:00~13:05 開会あいさつ

13:05~13:10 開催地あいさつ

奈良県農林部農村振興課

13:10~13:25 地域の魅力発掘と情報発信ツール

東京大学 溝口 勝

13:25~14:10 SNSを活用した農山村地域コミュニティの再構築

京都大学 鬼塚健一郎

14:10~14:30 奈良県における魅力発信の試み

奈良県農村振興課

14:30~14:50 未定(調整中)

14:50~15:30 休憩:実物展示(新作ゲーム紹介)

15:30~16:55 アイディアソン:地域の魅力と情報発信の方法

16:55~17:00 閉会あいさつ

18:00~20:00 情報交換会 会場周辺(参加費4,000円)  
※当日配布資料を後日部会ホームページに掲載予定。

参考:3月1日から14日まで、東大寺二月堂では、お水取り行事開催中。

<2日目>3月7日(火)

9:00~12:00 現地調査

奈良市内~天理市(山の辺の道周辺)~桜井市(NAFIC)~明日香村~橿原市内解散

6. 参加費 1,000円(資料代を含む)

7. 申込方法

農業農村情報研究部会のホームページから申し込んでください。電話・メールでは受け付けておりません。

<http://agrinfo.en.a.u-tokyo.ac.jp/>

8. 問合せ先

農業農村情報研究部会事務局

E-mail: [agrinfo-hq@iai.ga.a.u-tokyo.ac.jp](mailto:agrinfo-hq@iai.ga.a.u-tokyo.ac.jp)

TEL: 03-5841-1606

## 国際かんがい排水委員会(ICID)第23回総会における発表論文の募集について

2017年10月8日から14日にかけて、メキシコ・メキシコシティにおいて、ICID第23回総会および第68回国際執行理事会が開催されます。本会合の詳細は<http://www.icid2017.org/>でもご覧いただけます。

ICID日本国内委員会は、下記の要領に従い、上記会議における発表論文を募集いたします。投稿をご希望の方は、論文要旨(Abstract)を電子ファイルにてご提出ください。同時に、日本語での論文要旨も作成し、ご提出ください(提出先: [jncid@maff.go.jp](mailto:jncid@maff.go.jp))。お送りいただく論文要旨を日本国内委員会にて査読させていただいた後、ICIDメキシコ国内委員会へご自身で提出いただく流れとなります。(インターネットからのオンライン投稿: <https://easychair.org/conferences/?conf=icid2017>にてアカウント登録を行った後、オンラインで投稿します。)

### 1. 会議開催概要

開催期間:2017年10月8日(日)~14日(土)

開催場所:メキシコ・メキシコシティ

### 2. 募集トピック

募集トピックは以下のとおりです。各トピックの詳細は、下記URLに記載されております。

<http://www.icid2017.org/themes.html>

第23回総会テーマ:Modernizing Irrigation and Drainage for a New Green Revolution

<Question60:Water productivity:revisiting the concepts in light of water energy and food nexus>

60.1 Emerging issues and challenges of water saving,

including impact of transferring water out of agriculture

60.2 Understanding water productivity, water and energy use efficiency and water footprint of crops

60.3 Water security for growth and development

<Question61:State of knowledge of irrigation techniques and practicalities within given socio-economic settings>

61.1 Adopting precision irrigation and improving surface irrigation to combat water scarcity

61.2 Using ICT, remote sensing, control systems and modelling for improved performance of irrigation systems

61.3 Adaptability and affordability of new technologies under different socio-economic scenarios

3. 使用言語 英語

4. 提出期日 2017年2月20日(月)

5. 提出先 [jncid@maff.go.jp](mailto:jncid@maff.go.jp)

6. 作成要領

(1) Abstractとして500~600語で作成。

(2) ページ冒頭に論文タイトル、著者・共著者名を記載。同ページ下部に所属、住所、電話番号、FAX番号、E-mailアドレスを記載。

(3) 日本国内委員会に提出の際は、日本語での論文要旨を別添付。

提出いただいた論文要旨は、日本国内委員会にて内容を確認し、その結果を2月24日(金)までにご連絡いたします。



7. 今後の予定

- ・査読用論文要旨提出期限 (ICID 日本国内委員会あて)  
2017年2月20日(月)
- ・査読結果通知期限  
2017年2月24日(金)
- ・論文要旨提出期限 (ICID メキシコ国内委員会あて)  
2017年3月1日(水)
- ・論文要旨受領通知 (ICID メキシコ国内委員会より)  
2017年3月1日(水)～3月31日(金)
- ・Full Paper 提出期限 (ICID メキシコ国内委員会あて)  
2017年5月15日(月)
- ・著者への受領通知 (ICID メキシコ国内委員会より)

2017年5月15日(月)～7月15日(土)

8. その他

アカウント登録方法や提出期限等は、電子版 ICID NEWS UPDATE にも記載されていますのでご確認ください。  
電子版 ICID NEWS UPDATE 12月号：  
[http://www.icid.org/nup2016\\_12.pdf#page=3](http://www.icid.org/nup2016_12.pdf#page=3)

9. 問合せ先

農林水産省農村振興局整備部設計課海外土地改良技術室内  
ICID 日本国内委員会事務局 担当：宇野  
TEL：03-3595-6339 FAX：03-5511-8251  
E-mail：jncid@maff.go.jp

農業食料工学会食料・食品工学部会第3回シンポジウムの開催について

1. テーマ 事例から探求！6次産業の持続化と新展開に求められるモノ
2. 主催 東京農業大学・農業食料工学会  
後援 農業農村工学会ほか8学協会(予定)
3. 日時 平成29年2月27日(月) 13:00～17:00
4. 場所 3×3 Lab Future (サロンゾーン)  
〒100-0004 東京都千代田区大手町1-1-2  
大手門タワー・JXビル1階
5. プログラム  
「あか穂の実りに夢を託して」  
工房あか穂の実り代表 松田 静  
「ブドウ畑からテーブルまで」  
(有)ココ・ファーム・ワイナリー専務取締役 池上知恵子  
「6次産業化に向けた農家の思いとその実態—農家レストラン

ンを中心として—」 同志社女子大学准教授 齋藤朱未  
「エネルギーと食の地産地消を含めた6次産業の事例報告」  
(株)開成代表取締役 遠山忠宏  
・農業食料工学会におけるオーガナイズドセッション・地域資源の6次産業化技術において発表された研究の紹介  
・総合討論  
プログラム、参加申込み等の詳細は農業食料工学会ホームページ (<http://www.j-sam.org/index.html>) をご覧ください。

6. 参加申込締切 平成29年2月17日(金)

7. 問合せ先

農業食料工学会 食料・食品工学部会  
シンポジウム実行委員長 村松良樹  
TEL：03-5477-2806 E-mail：y-murama@nodai.ac.jp

日本混相流学会混相流シンポジウム2017の開催について

日本混相流学会は、1987年7月に設立され、本年30周年を迎えます。日本混相流学会混相流シンポジウム2017は、オーガナイズドセッションと一般セッションから構成されており、研究成果とその討議を通じて、混相流の学理とその応用技術に関する最新の情報交換を行い、混相流研究のさらなる展開と参加者相互の活発な意見交換を目指しております。混相流は、固体・液体・気体を含む複雑流動現象であり、かつ自然界から産業プラントにまで広く見られる普遍的な流動現象です。オーガナイズドセッションとしては、混相流が広範囲の産業と密接に関わりがあることを踏まえ、環境、材料、機械、土木、原子力、化学、航空宇宙、などを横断的に含む内容を取り上げております。また、会期中に、30周年記念式典を開催予定です。

このように、混相流シンポジウム2017では、混相流関連の研究そして技術開発に携わっておられる研究者や技術者ならびに混相流を中心とした最新の科学技術の進展にご関心のある方々による多数の講演発表と活発な意見交換を期待してござ

す。どうぞ、奮っての講演発表そして参加のお申込みをお願い申し上げます。

1. 主催 日本混相流学会  
共催 電気通信大学  
協賛 農業農村工学会ほか33学協会(予定)
2. 開催日 平成29年8月18日(金)～20日(日)  
もしくは19日(土)～21日(月)(決まり次第、ホームページでアナウンスいたします。)
3. 場所 電気通信大学(東京都調布市)
4. 講演発表申込締切 3月17日(金)  
詳細は混相流シンポジウム2017ホームページ  
<http://www.jsmf.gr.jp/mfsymp2017/>  
をご覧ください。
5. 問合せ先  
日本混相流学会混相流シンポジウム2017実行委員会  
E-mail：konsosymp@jsmf.gr.jp